

習志野市議会議員

相原かずゆき

第15号

「議会報告」

<http://aihara1002.com/>



討議資料

こんにちは、相原です。毎日寒い日が続いており、インフルエンザが流行しております。うがいや手洗いはこまめに行ってください、健康に十分お気を付けください。昨年、習志野市制施行60周年を迎え、本年は、戦後70年、そして、阪神淡路大震災から20年という大きな節目の年となりました。この節目には、過去の歴史を振り返り、そこから継承すべきものと、今後新たに取り組むべきものを見極めて未来につなげていかなければならないと感じております。本年も、様々な観点から習志野市民の皆様の安心・安全そして住み心地の良い街づくりのために尽力してまいります。

相原和幸

平成26年 習志野市議会 第四回定例会 【一般質問内容】

1. 正規職員の人員配置と仕事量について

定員適正化計画に職員の労働時間は、反映されているのか。また、業務分析との整合性を図るべきと考えるが、定員をどのように考えているのか伺う。

2. 市議会での執行部の発言について

市議会において、通告制度を採用している習志野市では、事前に質問内容は、通告することがルールだ。そのルールにのっとり平成24年9月議会において現在未使用の旧市庁舎の最上階にある防災用行政無線の親局の移動について質問をし移動するという執行部からの回答があったが、現在も移動していない。なぜか伺う。

3. 習志野市子どもセンター(鷺沼)について

耐震強度の問題等から現在閉鎖になっている敷地及び施設の今後の計画は、どのような計画をもっているのか。また、今年度予算にある子どもセンター改修・解体事業設計費1千60万円はどうか伺う。

平成26年 習志野市議会 第四回定例会が、11月21日から12月19日まで開かれました。一般質問は、12月3日に行いました。主な内容は、上記の通りです。習志野市ホームページ内(市議会 議会中継)においても動画配信をしております。

- 所属会派 環境みらい(平成25年4月1日より環境都市習志野をめざし超党派で結成)
- 所属委員会 ○議会運営委員会 ○総務常任委員会(副委員長) ○農業委員会
- 特別委員会 ○一般会計予算特別委員会

■本紙は再生紙を使用しております。■発行日:平成27年1月17日

◎第10回「議会報告会」開催のお知らせ◎

2月15日(日)

14:40より受付開始

開催時間 15:00~17:00

会場:鷺沼集会所[根神社の下(社務所)]



議会報告会を通じ、みんなの声を市政に届け、地域における諸問題を少しでも改善していきたいと考えております。今回の議会報告では、特別ゲスト 衆議院議員 小林 鷹之氏、県議会議員 佐藤正己氏をお迎えし、ミニ国政報告・県政報告をしていただきます。是非この機会に、ご友人・知人の方をお誘い合わせの上、ご参加いただけますようご案内申し上げます。

特別ゲスト

- ◎ミニ国政報告 衆議院議員 小林 鷹之 氏
- ◎ミニ県政報告 千葉県議会議員 佐藤正己 氏

◎習志野市政報告
習志野市議会議員 相原和幸

主なテーマ

- 習志野市議会の動向
- 習志野市制施行60周年から見えてくる将来への課題と展望
- 習志野市議会に求められる市民の声
- 質疑応答 などを予定しております。

★ご要望があれば、出張議会報告会も行います。お気軽に相原携帯までご連絡ください。



プロフィール

- 昭和46年10月 誕生 ●習志野市立鷺沼保育所 ●習志野市立鷺沼小学校 ●習志野市立第三中学校
- 千葉県立船橋古和釜高等学校 ●東洋大学 経営学部 経営学科 卒業
- 平成22年10月印刷会社 退職●平成23年4月習志野市議会議員(初当選)
- スポーツ・趣味
- 剣道:5歳から小学5年生まで ●書道:小学1年生から中学3年生まで ●バスケットボール:現在も地元で活動中
- 旅行:日本全国(沖縄県以外)を自然調査も含め大学時代に実施 ●音楽鑑賞:ジャンルを問わず和太鼓演奏なども
- 読書:昨年読んだ私のNo1「跳びはねる思考」東田直樹 ●映画鑑賞:心に残る映画(シンドラーのリスト)

習志野市議会議員 相原和幸 連絡先 〒275-0014 習志野市鷺沼1-11-14

自宅Tel・Fax: 047-453-2918 携帯電話: 090-2478-7979

e-mail: aihara1002@outlook.jp ホームページ <http://aihara1002.com/>

一般質問

正規職員の人員配置と仕事量について

「質問」
定員適正化計画に職員の労働時間は、反映されているのか。また、業務分析との整合性を図るべきと考えるが、定員をどのように考えているのか伺う。

「回答」
第3次定員適正化計画は、前期基本計画の計画期間である6年間の人件費をコントロールする計画として、平成二十六年四月一日から平成三十二年四月一日までを計画期間とし、スタートしている。

本計画の策定においては、第二次計画の実績、平成二十四年度に実施した業務分析結果、類似団体との職員数の比較及び本市

の財政状況と人件費の推移等を踏まえ、庁内プロジェクト等において、検討を重ねた結果、適正化の四つの手法。

- 一、事務事業の最適化及び行政運営体制の見直し等による業務の効率化
- 二、施設の統廃合及び民営化、民間活力の導入
- 三、地方分権の推進・国の制度改革への対応
- 四、社会状況変化への組織的な対応と効果的・重点的な職員配置などを掲げ、取り組むこととした。

計画値としては、平成三十二年四月一日の企業局を除く職員数を千三百四十四人と、平成二十五年四月一日から九人の減とすることとしている。ご質問の職員の労働時間の反映、業務分析との整合性については、平成二十四年度に実施した業務分析において、約五九人の職員が不足との結果が出ている。但し、現状の業務のあり方に対し、

年間業務量の変動や個々の職員による業務量のバラツキの大きな改善すべき課題が指摘されており、その上で、業務分担の適正化や業務量の削減、組織機構改革の実施等、自らの改善の取組みによる対応策が求められた。

このことから、第三次定員適正化計画においては、約五十九人の不足のうち、半数相当については、現状業務の見直し・改善及び組織機構改革の実行等により、業務量の削減を行うことにより、対応することとし、残り半数相当については、既存業務への更なる民間活力導入の推進を図ることを第一とし、その上で、必要な増員を図るものとしている。

定員管理の目的とは、厳しい財政状況の中、常に人件費とその投入効果を意識し、市民の皆様への負担の増加を抑制すること

ことに留意しつつ、行政が取り組むべき様々な課題について、的確に対応していくために、貴重な人材を活かし、「最少の職員数で最大の効果をあげるようにすること」にある。私は、去る十一月四日に、平成二十七年年度予算編成作業に併せた、各部署への定員配当において、次のことを各部署長へ指示した。すなわち、習志野市が将来にわたり、持続可能な行政運営を進めて行くためには、職員一人ひとりが現状のあらゆる事務の効率化、業務の外部化など、業務量の削減に結び付く、たゆまぬ業務改善と自らのワーク・ライフ・マネジメントに取り組むことが必要不可欠であり、再度、全職員が認識するべし、ということとした。第一次経営改革大綱実行計画に記載されている経営改善・財政健全化に向けた各部の取

組項目を確実にスピード感をもって実行する中で、定員適正化計画を着実に実行し、規模の適正化を図りつつ、市民生活の向上に資するため、貴重な人材を最大限に生かす組織運営を図っていく。

「質問」
労働時間管理の観点から、新庁舎では出勤システムを導入してはどうか。

「回答」
現在、職員の出勤管理は、所属長等の管理職が直接管理することとしている。年次休暇承認請求書、時間外勤務命令簿により責任を持って管理している。今後、ICカード等を利用し、部外者の不正侵入を防ぐセキュリティ機能と併せた出勤管理も可能なことから新庁舎建設に併せ、新たなセキュリティシステムの導入を予定しているため、出勤システムの導入に関しても、新庁舎等建設本部と協議していく。

市議会での執行部の発言について

「質問」
市議会において、通告制度を採用している習志野市では、事前に質問内容は、通告することがルールだ。そのルールにのっとり平成二十四年九月議会において現在未使用の旧市庁舎の最上階にある防災用行政無線の親局の移動について質問をし移動するとう執行部からの回答があったが、現在も移動していない。なぜか伺う。

「回答」
東日本大震災を受け、平成二十四年十月の旧クレストホテルへの庁舎移転に合わせて、防災行政無線の親局を消防庁舎へ移設する予定だった。しかし、その後、平成二十九年度の新庁舎の建て替えに合わせ、防災行政無線をアナログ方式からデジタル方式へ切り替え

ることを視野に入れるとともに、現在の親局及びアンテナの寿命、移設費用等について、総合的に再検討し、防災行政無線の親局は、新庁舎の建て替えに合わせて、デジタル方式の親局を新設することとした。

「質問」
防災行政無線は、地震等の有事の際に情報を市民に伝える重要な手段だと思ふ。仮に、大きな地震で旧市庁舎にある親局が壊れてしまい機能しなくなった場合は、どのようにして市民に情報を伝えるのか伺う。

「回答」
仮に、旧市庁舎にある親局が機能しなくなった際には、発災当初は、緊急情報サービスならしのなどのメールシステム、ホームページ、ツイッター等の他、二十四台ある広報車を最大限に活用し、市民に対して情報発信をする。また、避難所が開設した

以降は、比較的災害に強いPHSを加えて、情報を避難所に伝え、地域のネットワークを使い、地域の方々に情報を伝えたいと考えている。

「要望」
今回のように、市議会での発言は、状況によって変わる場合には、しっかりと行政として変更が生じた場合には、速やかにどのような理由で変更したのか説明していただきたい。

「質問」
耐震強度の問題等から現在閉鎖になっている敷地及び施設の今後の計画は、どのような計画をもっているのか。

として平成十二年十一月に開設した習志野市こどもセンターは、鷺沼地区の方だけではなく津田沼・谷津・藤崎地区等、こどもセンターを設置していない地域の方に多く利用していただいている。平成二十四年度実績では、こども園こどもセンターや、きらっ子ルームを含めた市内五か所の地域子育て支援拠点利用者延べ八万八千三百八十七名の約三六%を占める三万二千百七十二人の方に利用されている。また、乳幼児期は、保護者、子どもとともに、密接な親子関係により愛着を形成する最も重要な時期であり、生涯を通じて心身の健康の基盤づくりとなる限られた期間でもある。親子が安心して過ごせる環境を継続的に確保していくことは非常に重要であり、行き場のない空白の期間を作ってはならないと考えている。このよう

から、こどもセンターの再開については改めて検討していく。

「質問」
今年度予算一千六十万円の使い道はどうなるのか伺う。

「回答」
習志野市こどもセンターについては、今後施設を設置する方向で準備をすすめている。一方、今年度当初予算で予定していた改修・解体設計業務については、その執行を断念し、その後新たに、解体工事設計事業に変更しよう検討したところ、本事業を実施するにあたっては、スケジュール的に今年度中に事業を完了させることが困難であることから、本年度予算の執行を見送る。

第四回習志野市議会終了後、今年度予算が、閉鎖中のこどもセンターの維持管理費として一部使用されるとい報告を担当課より受けた。